

令和2年度第3回下田市総合教育会議 会議録

開催日時 : 令和3年3月5日(金) 17時30分～18時05分

出席者 :

【委員】

市長	松木 正一郎	教育長	佐々木 文夫
教育委員	田中 とし子	教育委員	渡邊 亮治
教育委員	西堀 政幸	教育委員	天野 美香

【事務局】

学校教育課			
課長	糸賀 浩	参事	和泉 多恵子
学校教育係長	平川 博巳	指導主事	檜山 和人
子ども育成係長	内田 陽久	主事	井出 涼子
生涯学習課			
課長	鈴木 美鈴	図書係長	澤地 彩
社会教育係長	金守 俊彦		
統合政策課			
課長	平井 孝一	参事	加藤 克寿
政策推進係長	本間 洋	主事	藤井 茂雅

1 開会 17:30

2 あいさつ

・市長

本日は、前回いただいた意見を基に修正を行い、パブリックコメントでいただいた意見をどのように反映させるかを事務局で検討し、その結果を踏まえた案を最終案として、提示している。

最終の会議となると思うが、最後までいろいろな意見をお願いしたい。

・教育長

今日は最終案を決定できればと思う。定例教育委員会としても4回、教育大綱(案)を確認した。教育関係懇談の中でも何回か大綱について話し合いをした。

資料のように、パブリックコメントで様々な意見をいただいた。意見への回答について事務局から説明があるが、その内容も踏まえた最終的な大綱をつくっていききたい。

皆様から貴重な意見を聞きながら、まとめていききたいと思うので、よろしくお願いしたい。

3 協議事項

下田市教育大綱(案)について

・事務局(学校教育課参事)より説明。

・事務局

パブリックコメントを実施し、5名の方から意見をいただき、教育に関心をもっていただいていることがうかがえ、大変ありがたく思う。

結果として、概ね教育大綱（案）と大きく異なる意見はないと感じた。

例えば、「自分の資質や能力を存分に発揮し、伸ばして行くことが出来る子供たちばかりではない。自分の資質や能力を発揮し、伸ばすための「居場所」に加えて、様々な不安や悩みを持つ子供たちへの「居場所」作り、学校の中で落ち着くことが出来る自分の居場所をなかなか見つけることが出来ない子供たちの「居場所」作りにも配慮して頂きたい。」や「伝統文化の見直し 20世紀の、社会の急激な変化によって見失われてしまったもの、また失われようとしているものがたくさんある。日常生活（各家庭に伝わってきた漬物や料理など）、年中行事（節句や神社のまつり、お寺の花祭り、地域の夏祭りなど）に積極的に参加し、学校の勉強だけでなく、「生活の知恵」を身に付けていくことが一生の財産になる。」などの取組に対する意見は、教育大綱（案）と共通している、直接的な表現は同一ではないものの、意見の内容は教育大綱（案）でも示されている。

教育大綱は、地方公共団体の長が、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となるものを定めるものです。その教育の理念の活性に向けて、そこに進むべき方向を示すものが、これを受けた学校教育の基本方針、生涯学習の基本方針であり、現在、作成しているところである。

教育大綱（案）ではなく、教育の基本方針の参考とさせていただきたいと考えた意見もあった。

例えば、「居場所（特に学校における）」について、コロナ禍による最近の不透明な社会情勢のみならず、様々なことで不安を抱える人が多い社会の中で、学校生活や日常生活における様々なサポートや配慮が必要な子供が増えてきているように感じる。そのような様々な理由で適応が難しい子供たちの居場所はどうか作っていくのか。」や「私案を作成したので、見ていただきたい。」については、表現は違うが、願う教育の姿は教育大綱（案）と共通している部分が多く、教育の基本方針の参考とさせていただきたいと考えた。

また、いただいた意見の中で、教育大綱（案）の修正、加筆が必要と思われた意見があり、教育大綱（案）を修正、加筆した。

1つ目は、「世界的視野の獲得 近年の異常気象などによる災害対応する教育が求められる。スウェーデンのグレタさんのように、若い方の活動が目立っている。下田市でもグリーンリカバリーとは何か、環境を守るにはどうしたらいいか、という教育が求められるのではないか。」や「地球規模での気候変動や地域での環境問題に関心のもてる教育をすべきである。」という意見から、前回示した、下田を感じる、味わう、好きになる取組の中の「開国のまちの特色を生かして国際的なコミュニケーション能力を身に付けます」の表記であると、コミュニケーション能力を謳うと外国語の活用、話すといったところを考えると、他の国の文化や国際的な環境問題等の国際感覚を身に付けることが必要と感じ、「開国のまちの特色を生かした取組を通して、豊かな国際感覚を身に付けます。」と修正した。

2つ目は、「日々の生活のことばかりでなく、世界的視野に立って、GDPの急落などで衰退に向かっている日本を、しっかり立て直してくれる若者が育ってくれることを望んでる。」や「未来」とは何か明確にしてほしい。「未来」とは核兵器も戦争もない平和な世界を実現すること。病や災害から身を守り、人格が尊重され、それぞれの能力が発揮される社会であり、憲法と教育基本法、また教育法等にもとづき具体化することが必要である。」という意見から、未来について教育委員会で協議し、未来は予測困難であり、だからこそ、何が起きてもそれを乗り越える勇気、対応する柔軟の思考が必要になると考え、未来を切り拓く志をもった人とは？の箇所に「困難を乗り越えるたくましさを持ち、柔軟な思考で対応することができる人」を加筆した。

【質疑、意見等】

・田中委員

概ねこの案で良いが、パブリックコメントの環境問題については、意見のとおりで、子どもたちに環境問題に取り組む子どもに育ててもらいたい、育ててもらいたいと考える。

この意見への対象事項として、「開国のまちの特色を生かした取組を通して、豊かな国際感覚を身に付けます。」に属しているが、合っていないのではないかと考える。

・事務局

下田は開国のまちで特化している。だからこそ、他の市町より国際感覚を身に付けてもらいたいという気持ちを込めている。基本方針の中ではもう少し入れるが、開国のまちだからこそこの行事があり、そこでいろいろな文化に触れることで国際感覚を磨いてほしいと考えた。

国際感覚は、環境問題、国の抱える問題や課題などにも興味をもち、そして自分が何かできないか考えるところにあると考えている。

・市長

私も田中委員と同様の思いをもった。

意見では世界的視野の獲得とあったため、国際感覚としたと思うが、キーワードとして、環境は重要ではないかと考える。国際感覚も必要ではあるが、別で環境についてのものが必要ではないか。環境問題には、環境と平和の重要な大きなテーマがあり、キーワードとしては、必要ではないかと考える。

・事務局

教育大綱の中で示していることが大きな理念であり、環境問題でいえば、未来を切り拓く志を持った人になるために大切なことは何ですか？の中の「未知の状況にも対応できる判断力、表現力、行動力を身に付ける」や未来を切り拓く志をもった人とは？の中の「困難を乗り越えるたくましさをもち、柔軟な思考で対応することができる人」に関わってくる。

直接、環境問題といわなくても、説明ができる。教育の基本方針に掲げているため、教育大綱には直接的な表現はないが、大きくとらえていただきたいと思っている。

・市長

環境というと、その他、福祉やジェンダーについての概念もあるが、これらを含んだ表現として新たな価値など大きくとらえた表現にしているということで良いか。

・事務局

ご意見のとおりであり、人権教育、平和教育も全て必要だが、全てを網羅すると一つ一つ示すことになり、莫大な量となる。

教育大綱を受けた学校教育の基本方針において、どこに視点を置くか考え、基本方針から学校が学校教育目標をつくり、そのあと子どもたち一人一人が目標をつくるという流れになることから、大きな理想の姿を示すものが教育大綱ではないかと思う。

・西堀委員

今回、示された教育大綱（案）は、うまくできていると思う。

パブリックコメントをいただいた方には申し訳ないが、大きな幹で考えてもらえれば、これで良いと思う。

・渡邊委員

委員の皆様の教育に対する意見は大事なことと思う。

また、民間のお客様の声を聞くことが一番というように、市民の声を一つ一つ聞いて対応し、良いものができれば思う。

・天野委員

説明にあった2つの修正と加筆において、居場所づくり、文化、下田の歴史、環境問題、防災などいろいろ含めて、全体的に教育大綱に示されていると思う。

現場である学校教育に、教育の基本方針と調和させて、子どもたちの教育につながるものになっていると思う。

・市長

前回、たくさん意見をした。

今回示された教育大綱（案）は、意見に対応し、良いものになったと思う。

折角の大綱なので、現在の時代にふさわしいことを盛り込む必要があった。下田らしさにつながらなければならない、そういった点で国際的な話も盛り込まれており、人口減少の中でどういう子供を育てたいのかという子どもたちへのメッセージも入っており、とても良いものになったと思う。多様な価値観を認め、つながりを大切にするというところは、秀逸だと思う。事務局の熱心な取組に感謝する。

・教育長

パブリックコメントの件ですが、これだけの内容は、皆様が教育に対して熱い思いがあり、パブリックコメントに応募してくれたものだと感じた。他の市町では、意見はなかったように聞いていたため、このようにたくさんの意見をいただき、事務局としてどのように取り入れていくか悩んだ。

全部取り入れたいが、教育大綱は根本を示すものであり、学校関係については、教育大綱策定後、学校教育の基本方針を策定し、子どもたちをお願いするもの、どのように育てほしいというものを各学校に提示する。学校目標をつくり、学級目標、個人の目標をつくる中で、自分の未来を切り拓いていく、そのような子どもを育てていきたいと考えている。

時間をかけて作成してきた中で、言葉の難しさを感じ、今回、最終案を提示した。いろいろな議論をもらいながら、完成した。自信をもって、皆様に見ていただける内容になったと思う。いろいろ議論いただき、ありがとうございました。

・事務局

今回提示した修正、加筆をしたもので、令和3年4月から令和8年3月までの5年間の下田市教育大綱を制定させていただくことにご異議ありませんか。

・委員

異議なし。

4 その他

・事務局

前々市長の楠山氏と元下田中学校長の渡辺氏より、高校の魅力化について、教育委員と話をしたいと要望があった。

次回の総合教育会議の場で時間があれば意見交換をさせていただきたいと思っている。

・教育長

渡辺元下田中学校長より話を聞き、高校の魅力化において、支えていかなければならない、考えていかなければならないことと思っている。

下田の人たち、団体、教育委員会の話を聞きながら、義務教育の中でも学校の魅力化を進め、子どもたちを高校に送り出さなければならぬ。細かい話を聞かなければわからないが、義務教育と高校との連携は必要と考えている。総合教育会議の場において、機会を設けるとのことなので、委員の皆様にもぜひ話を聞いていただき、ご意見を出していただければと思う。

・市長

根本は、教育環境の魅力化であると思うので、高校の魅力化に限定しないで、教育の魅力化や学校の魅力化という形にしてもらいたい。教育全体のこととして、県と話をし、下田市から提案するというものにした。

先方にもそういった形で話をしてもらい、意見交換を進めてもらいたい。

・事務局

ご意見のように、総合教育会議の場で協議するのであれば、教育の魅力化という形で話すべきと考えます。

教育の魅力化という形で話をし、進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

5 閉会 18:05